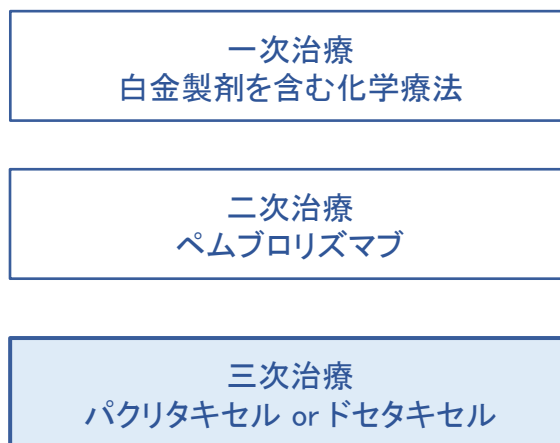


尿路上皮がん(urothelial carcinoma)

- 尿路上皮がんは、発生部位により膀胱がん、腎盂がん、尿管がんに分類される。尿路上皮がんのうち、約90%が膀胱がんであり、約10%が腎盂・尿管がんである。日本において膀胱がんと診断されたのは2018年で23,230人である。
- 膀胱癌診療ガイドライン 2019年版では、切除不能又は転移性の尿路上皮がんの治療として、一次治療では白金製剤を含む化学療法、二次治療ではPD-1阻害薬であるペムブロリズマブが推奨されている。
- 膀胱癌診療ガイドライン 2019年版では、三次治療に対する有効な治療法は確立されていないとされている。一方で、日本臨床腫瘍グループ(JCOG)・泌尿器科腫瘍グループが作成した治療開発マップにおいて、パクリタキセルまたはドセタキセルが標準治療に位置付けられている。これらの薬剤は、尿路上皮がんの効能又は効果を有していないが、社会保険診療報酬支払基金が設置している「審査情報提供検討委員会」において、使用が認められている。
- エンホルツマブ ベドチン(パドセブ)は抗体薬物複合体であり、「がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌」の効能又は効果を有している。一方で、添付文書の効能又は効果に関連する注意において「一次治療およびPD-1/PD-L1阻害剤による治療歴のない患者における本剤の有効性及び安全性は確立していない」とあることから三次治療の患者が投与対象となる。

図1: 転移性・切除不能 膀胱がん/腎盂尿管がんの治療アルゴリズム*



*JCOG 泌尿器科腫瘍グループ:尿路上皮がん治療開発マップ (一部改変)